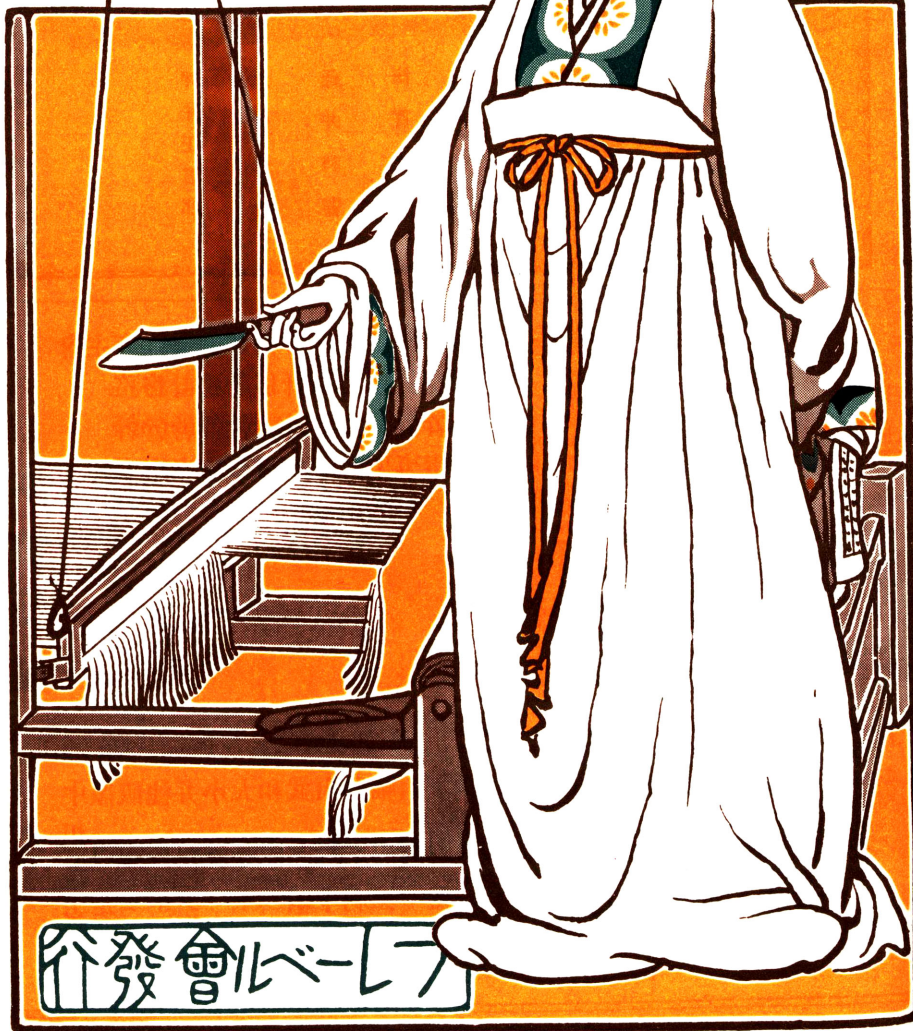


幼 兒 教 育 研 究 雜 誌

女 子 と も

第 拾 卷
第 五 號



フ ー ベ ル 會 發 行

第拾卷第五號目次

○重ね寫眞に就いて	理學博士 坪井正五郎
○習慣の話	文學士 上野陽一
○新入學兒童	藤井利譽
○支那の婦人と子供に就いて	法貫夫人
○倫敦の母學校	新歸朝者 田中太郎氏談
○保育叢話(承前)	光藤夫人
○家庭に於ける花壇	東京農事試験場技手談
○小鳥の話	磯川生
○お伽不思議の火打石	硯山人

本會役員

會長 主會 庶會 庶會 庶會 庶會 庶會 庶會 庶會 庶會
 幹事 幹事 幹事 幹事 幹事 幹事 幹事 幹事 幹事 幹事
 計務 計務 計務 計務 計務 計務 計務 計務 計務 計務
 庶務 庶務 庶務 庶務 庶務 庶務 庶務 庶務 庶務 庶務
 編輯 編

川謙次 飯沼田 池沼田 小關村 大關村 和井田 武井田 山井田 藤井田 福井田 雨田 下田
 治郎 定次 清三 ヨシト 網十 利富 實つ 實つ 實つ 實つ 實つ 實つ 實つ 實つ 實つ 實つ

質問規定

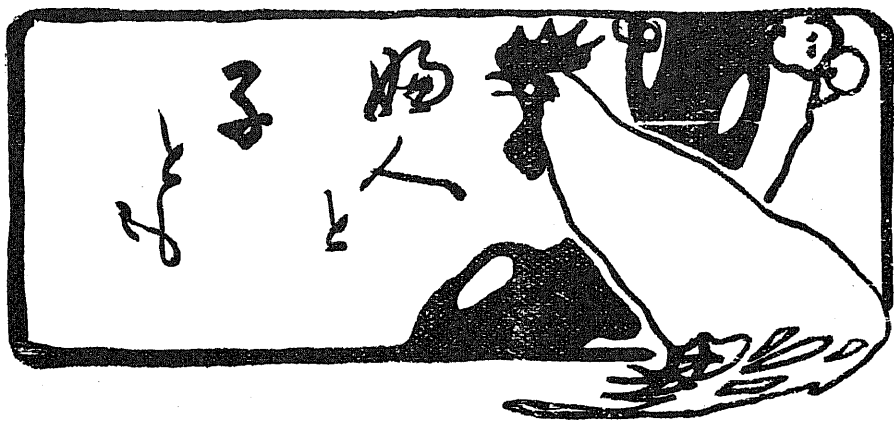
本會は讀者の種々なる質問に應じます婦人と子供と家庭とに關する事なら何でもお尋ねなさい。往復はがきか又は返信封封入ならば早速に御答します。公衆に有益だと思ふことは誌上で説明します。

入會又は購讀手續

(振替口座東京 一七二六六番)

本會に御入會なさうとする方は會費一ヶ月金十錢の割合で一ヶ年分をまとめて振替貯金へ御拂込下されば直に登録して雜誌を發送致します。會員にならずに雜誌だけ讀みたい方は此の割合の前金で本會か又は賣捌書店へ御便宜御申込下さい。

- 一冊郵税共金拾一錢
- 六冊前金郵税共六拾錢
- 拾二冊同金壹圓貳拾錢
- 郵券代用一割増



第拾卷第五號

午睡の時候

◎追々午睡のしたい時候となつて来た、従来午睡は身體健康のためには甚だ宜しくないといふ云はれて居たが、近頃は或る程度迄は實際に必要であると云はれるやうになつた、併しこれには種々な害が件ふから餘程の注意を要する

◎午睡の時間は多く十二時半頃から四時頃迄行はれるので普通であるけれども、之では時間が少々長過ぎて衛生上にも甚だ宜しくない、最も適度な所は午後二時頃から一時半即ち三時半頃迄、太陽の傾く頃迄するのは風邪を醸す基である

◎午睡をするのに涼しいやうにといふので室の障子を悉く明けはなすのは最も悪い加へて往々何もしないで眠る人が其の危険に實に夥しいもので、少くとも毛布一枚位は是非着て寝る必要がある

◎ハンモック杯で眠る人があるがそれは少々考へもので、同じ吊床でも網になつて居ないものならば其害も餘り多くない、イヤ却つて下に寝るよりも可かも知れぬ

◎子供には成るべく午睡をさせるが可い、午後一時頃から三時頃まで、成るべく静かに眠らせるといふは子供の發育を助けるものだ

重ね寫眞に就いて

理學博士 坪井正五郎

只今まで大學に用事がございましてしたのと、それから今又急に用事が出来まして緩つくり御話する違がありませぬから大部分省きまして少しく申上げます、題を掲げますれば「重ね寫眞」といふことであります、何せそんな御話をするかと申しますと、此頃三越呉服店で兒童博覽會がありますに就て何か参考品を出して貰ひたいといふ相談を受けて、私が不良少年の「重ね寫眞」と云ふものを出したのであります、然るに偶然なことであります、三越で様々お催しのあることと私の出した「重ね寫眞」と同じ形式の七美人の重寫眞と云ふものが出来た、それは美人の顔を七つ集めたのである、一方は男、一方は而も麗しい美人、一方はねぢけた心、剛情な心といふ總て此點に於て反對の事柄を同じ形式を以て妙な結果を生じたのであります、それで殊更に斯ういふ重ね寫眞の御話をして

不良少年の顔といふものはどんなものであるか、それらの事を申上げて何かの参考にならうかと思ふのであります。多數の方の中には既に御覧になつた方もありませう、若しまだ御覧になりませぬなれば陳列してあります其處を昇ると食堂がある、汽車がある其側に参考品の入れる所がある、それであるから熱心の人が通り掛りに見る、所が食堂の混雑、汽車に乘切れないから澤山に廊下を待つて居ると云ふやうな有様、さういふ譯で見る人があるが、どうかと思つて時々様子を見に行きます、此寫眞の前に立つて居る人が割合に多いやうであります、中には中々趣味を持つて居る人もあると云ふことを知つたのであります、一體この「重ね取寫眞」と云ふものは歐羅巴でして居つたのであります、學問上の役に立つことは少なかつた、それで今から十何年前殆ど二十年も前のこととでありますが、私はどうかして學問上の役に立てたいと云ふことを考へて、それには色々の人々の性質と云ふものが顔に現はれる、それで心の中は如何なる性質の人はどういふ風の顔付であるか、

云ふことを知つて居るが、併しそれを口で言ふことはムツかしい、例を擧げると怠け者と云ふ者は誰のやうな顔であるといふことを人を指して言ふのは甚だまづい。

抽象的のことを言へば斯う云ふことを思つて居つたのであります、一つ此重ね取寫眞と云ふものを學問上に應用して見やうと考へたのであります。元來「重ね取り」と云ふものはどうして初つたのであるかといふと大勢の畫家が肖像などの書いた時分にそれが正しく現はれて居るか居らないかといふことに付て哲學者のスペンサーが薄い紙に肖像を書かして、其幾枚もの肖像を再び透して書かせると癖といふものが消えて正しいものが出来るだらうと云つた、それが本になつてガルトンと云ふ人は之を紙を重ねて透すよりも寫眞の技術を應用して更に焼付けたら宜からうと云ふので、後に實際やつて見た。所が好い結果を得ましたので之を世間に發表したことがある、面白い技術と世人が思つた。それでも初めの中は慰みにやつたのである、何處の奥様の顔と何處の貴婦人の顔を集

めて見るとどんなものになるかと云やうなことで少しも意味のないものであつた。それではイカぬ何か役に立てやう、或は人の性質が顔に現れて居るかどうかといふので専門に顔を並てやらうと企つた人もありました。或は美術家であるとか數學家だとか、さう云ふやうな者ならばどうか、植物學者の顔はどうかと云ふ様に取つて見様としたのです。併し其探つて役にも立ちさうに思ふのは例へば或は紳士の顔であるとか、或は人の好む顔であるとか、或は輕蔑される顔であるとか、自分の心には思はないが他の人からは能く見られる顔だとか云ふ様に兎に角、妄りに變化することの出來ぬ顔でなくては困る。怠けものは何んな顔付をして居るであらうか、勉強家は何んな顔付をして居るであらうかと云ふ類でなくては折角寫眞を採つてもだめである。夫れでさう云ふ據らない顔に就いて探して見たが、中々思はしい顔がない、それを集めることが中々六ツかしかつた。例へば善人か悪人、此の善人の寫眞を撮つて之は慈善事業に金を出したから紳士だと云つた所で果して其人が

眞實さういふ優しい性質の人であるか、又中には
 無げ無しの五十銭か一圓の金を出す本統に慈善の
 考のある人もある、又中には百圓二百圓の金を
 サツサと出す、度々来るから五月蠅から出す、
 中には又自分の名が新聞に出るから嬉しいと云ふ
 ので出す、さう云ふものを撮つて金を出した人の
 顔と云つた所で果して其性質が現はれるか何うか
 怪しいものである。それで何處かにさう云ふやう
 な顔を寫す所はあるまいかと思つて段々考へし所
 がそれが二ヶ所ある、一は監獄署、監獄署であれ
 ばアツチへ向けコツチへ向けと云ふこともマナ自
 由に出来る、それからもう一つは感化院、是は不
 良少年が集つて居るのであるからヤサしい、監獄
 に這入つて居る者は社會で認めて之は宜くないこ
 とをしたものと定まつたものである。けれども時
 に依つて違ふ、或る場合には罪人と見做されて居
 る者でも他の方で宜いものと見做されて居ること
 もある、場合に依ると殺すのが宜いと云ふことも
 ある、人殺の顔を寫した所が果して悪人か何うか
 判らぬ。窃盗をすると云つても盗んだと云ふこと

が容貌に現はれるといふことは無さうだ。であ
 るから監獄で調べた所が果して性質が現はれて居
 るかどうか分らぬ、之に反して感化院に這入つて
 居る者は親が世話が出来なくて持て餘して感化院
 に入れたので、始末にをへないといふ點に於ては
 同じ性質を持つて居る、それで牢に這入ると云ふ
 ものならば社會が認めて悪い人間とした者を入れ
 て置いたのであるが、尙ほ精確にいふと悪いこと
 をして捕へられたものだけが居る所である。けれ
 ども本統の大悪人は捕まるやうな下手なことはし
 ない、皮肉に云ふと捕へられる位の奴は中位の悪
 人で極く悪い大悪人は中々容易に捕へられない、
 捕まるのは第二流の悪人である。然るに不良少年
 と云ふのは家に置けないと云ふ人間であるから大
 抵同じ位である、さうして此不良と云ふものが大
 凡三つ位になつて居る、斯う云ふ譯で感化院で寫
 眞を撮ることになつたのである。そこで帳面を見
 たら宜からうと云ふので繰つて見ると本名は知ら
 せない、本氏名は俗名と稱して普通は用ぬないで
 特に別の名が與へられてある、姓も明さない、誰

れは何處の者だと云ふやうなことが知れては氣の毒だから本名は知らせない、さういふ譯になつて居るので、それで閻魔の帳面を繰つて見ると大層立派な名が書いてある、性質が書いてある、それで懶け者、或は手癖が悪いとか、剛情だとか云ふ種類を集めて寫眞を十二三人撮つた、さうして焼付ける時に硝子に寫して鶏卵紙の上に載せる、若し一枚のものを十人焼くならば一人づゝ鶏卵紙へ載せる、さう云ふ風にして重ねると云ふと一つ寫る、丁度鉛筆で書を書くのと同じやうに重つた所が濃くなる、一二遍やると性來の顔付き性質等が現はれる如く、他から見ても可愛いか憎らしいとか其中から同じ性質のものを集めやうとする、産れ付の特長であるとかいふものが薄く消えて仕舞つて懶け者と云ふ通有性だけがハッキリ出て來ると云ふことも出来る、斯やうにして出來た所の剛情の顔を抽象すると云ふやうなものである、近頃池田と云ふ人が味の素と云ふものを拵へた、ア、云ふ風に甘いとか辛いとか、甘いといふ味が色々の特長のある中に斯んな性質でどう云ふ風の傾

があるかといへば一方は美人、一方は悪人、之を分析して得たものであります、同じ處が重なる、と誰れの顔でも無い性質を現はすことが出来る、即ち色に付て申しますと青とか白とか又味にては甘辛いとか、丁度人の顔形に於ても種々の性質のある如く抽象的に此性質は斯んなものであるといふかとか言へる、抽象的に形に現はして出すといふとソンのものであります、抽象的に立派な形に出て來る、斯ういふ面白いことになるのであります、三井に出してあるのは三つあつて一々説明が附してあるから誰が見ても分る、詐欺でもするか悪いことをする奴はマア目を細くして人の顔を忍んで見ると云ふやうなのである、さう云ふやうな者が寫眞に現はれて居りますからアレは手癖が悪るさうだ、何れが油斷がならない顔だと云ふことか別る。

扱て斯やうな寫眞を寫した所で何の役に立つかと云ふに、若しも斯う云ふ顔の者は剛情だ、どうも之に似て居る、どうも困つた者だと云つて心配しても仕方がない、さう云ふ場合には懶け者の顔に

陥らないやうにしなければならぬ、剛情に傾きさうだから眞直の方を持つて行くやうに豫防するところが出来る、豫防した種々の其顔付はどうなるかと云ふと性質が顔に現はれるものであるから心が直れば顔付も直つて来る、是は平生の喜怒哀樂に鑑みて分る、常に快活にして居ると顔付も快活である。さういふことに付て考へても分る、何か心配事があるといふと人の前では快活の風を装うてもトンチン漢な返つてしたりして心の中が面白くないと云ふことが分る、又嬉しいことがあると大勢の前で時々思出し笑ひなどをする、幾ら隠さうと思つても出て来る、精神状態は顔色に出て来るのであつて悪いことをしやうと思つてもそれがチヨツと出て来る、心が改まるといふと泥棒の顔をする事が出来ない、勉強家が懶け者の顔をしてもイケない、又剛情でも手癖の悪い人間でも寫眞に比べて見て落膽するに及ばない、それを直すといふと立派な顔に傾く、「重ね寫眞」にある性質のものは斯やうな通有な顔を持つて居ることを知るばかりでなく早く其事に氣付いて悪い方に傾かない

様に注意せねばならぬ。教育に従事する人は其事を言つて居る、又悪いことをしない中にそれを止めることが出来る、心の状態に依つて顔の違ふと云ふことはどんな社會に於てもある、例へば位地が低く思ふ通りの事の出来ない者も位置が上ると云ふと如何にも貫目が付いてズツシリとして何となく其顔付も宜くなる、我が見ても精神の外に現はれて居るといふことか見へる、心の中に愉快なことがある、それが見へて来る、斯ういふ譯で「重ね寫眞」と云ふものは懇みに用ゐるやうで利益のあるものである、是は参考室にある方であるか、前に申した七人の婦人を重ねて美といふ形を出したものがあつて、元來此美であるとか醜であるとか好きであるとか嫌いであるとか云ふことは是は其人々の好みであつて歐羅巴人が見て美しいと云ふが日本人が見ては醜いことではないけれども餘り澄してツンとして居るから好かないと云ふことがある。嫵致は宜いが愛嬌がないと云ふこともある。それから又場合に依ると見悪いけれども好きだと云ふこともある、さういふ風に醜美といふも

のは人に因つて違ふものである。又之は歴史的關係もある。所で多くの人の美人だと云ふものを重ねて取る、其處に美の標準といふやうなものが出て来る、大勢の標準一個人の標準は斯んなものであるといふことを示すことが出来る。三井に出してあるのは即ち此種のものである。一方では心の現はれ方を形の上に現はすといふことも出来るし一方では異なる標準を極めることが出来る次第であります、現今諸所にピラになつて下つて居る寫真に付て申しただのであります、極く簡略に面白くすることがある、兩方で見ると寫真、景色などが重ねて浮いたやうに見へる、普通の寫真では平に見へるが、二つを一時に見ると浮上る、さういふものを立體鏡とも言つて居る。

普通は右左に別々に入れるのであります、それに違つた人の寫真を入れて見る、其右と左に違つた人の寫真を入れる、所が幸にして多數の人が寫真を寫すのは手札形である、西洋人はカビネに寫し且つ其向きもきまつて居らぬが日本人は極つて居る正面もなく横向もない、此位の寫真です、

日本人の顔を見るのに寫真屋の誂通りに寫してある、何處で寫した寫真でも極つて居る、型が極つて居る、チヨツと新婚の寫真などを見ますとお嫁さんは斯う向いてお婿さんは斯うやつて居る、寫真屋がやつて来て斯んなことをやるのです、西洋人は色々面白い形をやりませんが、日本の寫真屋は御師匠さんに教つた通りにやる、其人の顔を合せて見るとチヨツと似るのであります、元來景色などは浮いて見える、其目的とは違ひますが應用して見ると二人の顔が重つて仕舞ふ、其結果といふものは二人の顔が五分／＼に出る、半々に出るのであるからどういふ性質を現はすといふのではない、二人こね交したと云ふ顔である、それをやつて見るとチヨツと出来る、焼く時に幾つもの別々の顔が集つたのであるが今の立體鏡を用ゐると只二つの寫真が集まればどんなものであるかと云ふことがわかる。是は焼附ける代りを簡單にするものである。

以上御話した趣意といふものは三井の兒童博覽會に私の考へた顔が置いてありますからそれで見て

戴きたい、それに附加へて「重ね寫眞」と云ふものはどんな利益があるかと云ふことを申したのであります、實はもう少し御話したいのであります、丁度今行かなければ間に合はぬといふ用事を控へて居りますから甚だ短くて失禮ですが是で御免を蒙ります。(總會演説、文貴記者)

習慣の話

(心理學通俗講話會)

文學士 上野 陽 一

●●●
▲習慣の範圍　オルガン、ピアノ三絃などの樂器を新調して、第一に君ケ代の曲を奏しますと、其樂器は、永久君ケ代を奏するに最も適當すると云ふことであります、又初めて弾くときは、音樂の上手な人に弾いて貰つて、樂器に良い癖を附けて置くのが必要であると云ふことは、一般の人の好く知つて居る處であります、日本に來て居る西洋人は、日本人の習慣に就て感心することが澤山ありと云つて居るさうですが、就中高い齒の足駄を

八
穿いて、石疊の上を轉ぶもせずカタノと駈けて往くことや、盲人が暗闇に脱ぎ捨てた下駄を、足の先で探し出すなどは實に不思議中の不思議だとい云つて居るさうです、成程是等も一つの習慣には相違ないのですが、私共が學問の上で研究する習慣と稱するものは、モット生命のある興味深いものであります。

▲習慣の意味本能　習慣とは何う云ふ意味であるかと云ふに、これは學問上の熟語としても用ひられて居りますが、又俗語としても多くの場合に用ひられて居る語であります、又本能と習慣との區別を申せば、生れてから後に養はれた作用が習慣で、生れながら有つて居る作用は、之を本能と云ひます、併し本能と習慣とは密接な關係を持つて居りまして例は小供は天性として恐怖の念を起し、同時に子供は好奇の本能を持つて居ります、子供が犬を見ると恐怖の心を起し逃げやうと思ふと共に、その怖いものを何うかして好く見たい、好く知りたいと云ふ、反對の本能を起します、其場合に若し親がその一方のみを抑へて、一方のみ

を自由じゆうに働はたらかせるやうなことがあると、其後そのごまでも、自由じゆうに働はたらかせられた一方いっぽうばかり發達はつたつして行き
ます、又また本能ほんのうが習慣しよくわんと變かはる場合あひあひがありまして、そ
の一例れいを擧あげて見みますと、子こ供どもは生うまれた當座たうざは別
に一定い定の運動うんどうをすることが出來きませんから、手足てあし
をバタバタとさせ、眼めの球たまをグルグルとさせて居をる許あ
りです、それは子こ供どもの生うまれたがらの本能ほんのうで、體内たいない
に充みちて居をる生理せいり的てきの力ちからが餘あまりて動うごいて居をるので
あります、それを傍かたはらから手てを舐しぶらせるとか、
奇麗きれいな玩具おもちゃを動うごかして見みせると、其通そのとおり眼めの球たまを
動うごかすと云いふ様に、所謂すいじゆ一定い定の型かたに拵しよつた運動うんどうを
する様ようになります、本能ほんのうに向むかつて習慣しよくわんを養やしなひます
のは、草原くさげんに道みちを附つけるやうなもので、一度いちど附つ
られた習慣しよくわんは、いつまでもそれが觀念くわんの通路つうろとな
るのであります、併いっしながらその一つの型かたに倣なつ
た習慣しよくわんを、立派りっぱに養やしなひ得えるまでには、種々しゆしゆの無駄
なものが出て來きます、例れい之これば運動うんどうにしてもオルガ
ンに向むかつて先まづ樂譜がくふに眼めを遣やり、鍵板きばんの上うへに指ゆびを
置き臺たいの上うへに足あしを乗のせて、緩急くわんきふの違ちがはざる音調おんてうを
發はつするの熟練じよくれんを得えるまでには、いろいろの要えんらな

い運動うんどうが出て來きますそれを學術がくじゆつ上の語ごで、蔓延まんえん
と云いつて居をります、それを必要ひつやうな分ぶんだけを殘のこし不
必要ふひつやうなものは刈きり盡つくし、切り捨きりすて、始はじめて一つの
極きまつた習慣しよくわんが成なり立たつのです。

▲癖くせと習慣しよくわんの區別けつべつ 癖くせと云いふものは一つの習慣しよくわんに
は違ちがひありませぬが、世間よこしまの人の癖くせと云いふことと、
習慣しよくわんと云いふことには、學問がくもん上じやう何なんう云いふ差さがあるか
と云いふに、大抵たいてい悪い方ほうのことを意味いみして居をります、
彼あの人は曲物まがものであるとか、手癖てくせが悪いとか、なく
て七癖ななくせ、あつて四十八癖しじゅうはちくせなど、皆みな悪い方ほうの事ことば
かりです、併いっし學問がくもん上じやうで言いふ習慣しよくわんと云いふことは、
モツと廣ひろい意味いみで、善よいことでも悪いことでも、
一定い定の型かたに倣なつたものを指さして云いつて居をります、
「人毎ひとごとに一ひとつの癖くせはあるものを我われにはゆるせ敷し島
の道みち」など、云いふのは型かたに倣なつた所謂すいじゆ癖くせで、學問がくもん
上じやうでは善よい意味いみも悪い意味いみも總ひらべて習慣しよくわんと云いつて居
ります。

▲習慣しよくわんの効能きうのう 習慣しよくわんは第一だいいちには運動うんどうを簡單かんたんにし
ます、蔓延まんえんな場合あひあひに餘計あまな運動うんどうをすることは、前まへに
説明せつめいした通りとおりです第二だいにには、疲勞ひらうを防ふぎます、善よ

い習慣が附いて居ると餘計な事を考へたり、餘計な事をしたりする必要があるから、大に疲勞を防ぎます、習慣の無いと疲勞を増すと云ふ一例を御話しますと、初めて訪ねる家、初めて行く道は、いろ／＼の注意を要するので、非常に遠く感じますが、二度目からは案内近くなつたやうに思われます、第三には機械的になつて來て、無益に腦を費さなくても、機械的に出来るやうになります、複雑な樂音を世間詞をしながら弾じ得るなどは、此一例であります、第四には精神を發達させます、習慣が機械的になると疲勞が少なくなりまして、尙ほ其外のことに進んで行くことが出来ます、二度修得したことは、漸次に習慣の範圍に入れて、更に未知のことを一生懸命にする様になります、若しも習慣がなかつたなら、一々考へてしなければなりません、例へば步行にしても、膝下にしても、多年の習慣があればこそ、何の苦もなく出来るのであります、一步を踏出すにも考へて一口物を食べるにもそこに習慣がなくて一々意識が加はつては、逆も我々の今日の運動は出來ま

せぬ、其證據には丸薬を嚥下しやうとするには、我々は必ず意識を加へますから、一ツ粒を嚥下するにもなかく容易なことではないのであります。

▲習慣形成の時期 「三つ子の魂百までも」と云ふことがありますが、三日乞食をすれば一生止められぬと云ふと同様で習慣と云ふものが如何に永續性を以て居るか云ふことの面白い實例です、元來少年期と云ふものは可塑性に富むものでありますから子供の親達は注意して此時代に善習慣を躱け惡習慣を矯める様に氣を付けねばなりません。歩き振り、話し振り、衣服の着こなし方、身體の素振りなどが出来るのは青年期であります。女學生氣質、番頭氣質、武士氣質等の氣質は善惡共に併用されて居ますが是は成年期に出来るものであります。彼根性を云ふのも殆んど是も同じものであります。

▲思想上の習慣 物の考へ方、解釋の仕方等にも一定の癖が出来るものです、私の知人に簿記を習つて居た一人の商人でありました、此人の腦は頗

る計算的になつて居りまして、時計の音が日本人にはチツク／＼と響き、西洋人にはチツクタクと聞えると言ふが自分の耳には「利が附く利が付く」と聞えると言つて居りました、詩人テニソンは暗夜に立つて、天を仰いで居ると、恰も自分は鍋を掩ふた中に立つて居つて、鍋の外の明るく世界の光を鍋の底から見るやうに、星が見えると云ふことを、詩に歌つて居ります、若し學問に従事して居る人が、星の夜に天を仰ぎましたならば、星は天體の何とか云ふ考へが起り、前のテニソンの如き詩歌的の考へは起らぬのでありませう、詩人は世の中の萬物を綜合的に形容的に考へる癖を以て居り、學者は物事を分析的に考へる癖を以て居ります、泉鏡花氏の小説湯島詣の中に文學士の神月梓が佛蘭西仕込みの子爵の令嬢と結婚して、上野から汽車に乗つて新婚旅行に出掛けた時、山下で汽車の窓から星の飛んだのを見て、梓はあゝ人魂が飛んだと叫んだと書いてあります、梓は何を見ても考へ方が文學的感情的であつたのです、其場合新夫人も矢張り爾う云ふ腦を持つて居

たら何事もなかつたでせうが、生憎此女は分析的科學的の腦であつたから、いゝえ星が流れたのです、あれは即ち隕石と云ふものですと云つたので、梓は心中甚だ穩かならず、おこがましいことを云ふ女だ、失敬なことを言ふ奴だと思つて、それからいろ／＼の事件が起ると云ふ筋になつて居りますが、これなどは夫婦の思想上の習慣の一致しなかつた一例です、世の中には駄洒落を云ふ習慣の人があります、可笑なことになるのです、私の友人にも、よく駄洒落を言ふ人があります、私も其人の顔を見ると、奇體に洒落が云つて見たくなる、今朝も私がステッキを忘れましたので「此頃ステッキ（素敵）に物忘れをする」と云ひましたら其友人は「何、つひ（杖）忘れたんだらう」と云ひました、杖とステッキ、これは物の同じ處から觀念が聯合したのでさう云ふ人は朝から晩まで、駄洒落を云つて居ます、これも一つの思想上の習慣です。

▲感情上の習慣 日常交際をして居る者の中に

は、快瀾な人にこゝとして居る人、鬱いて居る人、怒り易い人、涙もろい人等いろ／＼ありま
す、是れは詰り感情上の習慣で、世の中には三人
上戸と云ふものがありまして、或人は酒を飲むと
笑ひたくなり、或人は泣きたくなり、或人は怒り
たくなる、これも亦感情上の習慣であり、感
情上の習慣は一致しませんその著しい例は、始終
愉快の感情を心に起すと、其人の顔は常に愉快の
色に輝いて居ります、それに反して始終陰鬱な心
持をして居る人は、顔色も悒鬱になります。

▲動作上の習慣 我々の動作は九分九厘迄習慣で
あります一寸巻煙草を喫むと云ふことでも、注意
して見て居ますと灰の落し方が一人々々違ひま
す、或人は中指の先で、トン／＼と叩いて落し、
或人は家の内外を辨へる、暇もなく、口でフーツ
と吹き落します、又或人は灰皿がなければ煙草盆
とか火鉢の縁とか、何かしらにこすりつけます
往來を歩いて居てこするもの、ない時は、御丁寧
に電信柱に持つて行つてこすり付けます、人と談
話をするにも、或人はポツケツトに両手を差入れ

るとか、或人は両手を卓の上に置くとか、必ず動
作の上に極つた習慣があつて、偶々其習慣に違ふ
と、調子が外れて思ひを叙ぶることが困難になり
ます、或中學校の生徒に頗る俊才があつて、教師
の問ひに一として答へられぬ例がなかつたのに、
或時不思議にも答へが出来なかつた、後で調べて
見ると毎も立つて答へをするときには、洋服の脇
の鈕釦をいぢくりながら答へるのでした、處が其
日は鈕釦がとれてなくなつて居たので、調子が外
れ答へられなくなつたのです、斯くの如く我々の
動作上の習慣は、心の作用の上にも影響を及ぼす
ものです。

▲良い習慣をつける法 良い習慣を附けるには、
子供の場合同大人の場合との二つがあります、子
供には良い手本を示すと云ふことが最も大切で、
人の觀念と云ふものは、一々運動に表はれます、
さうして一旦運動に表はれると、道が附いて了つ
て、其次には又其道を通つて運動をする傾向があ
ります、子供の習慣として大人になるまで連続す
る大切なことは、睡眠と食事であり、之が家

庭で注意すべき最も重要なことであります、乳を
 與へる時間の如きは、子供が請求しなくても母の
 方で注意をして、其時を違へぬやうにしなければ
 なりませぬ、次には社會の影響であります、上流
 社會は優美になり、下等社會は粗野になると云ふ
 ことは、一般の風で、子供の時から習慣の然ら
 しむる事は云ふまでもないことであります、
 又自然界の影響、天然の風景などは子供の性格の
 上に相違を生じます、大人が良い習慣をつくらう
 と云ふには、何うしたら宜いかと云ふに、例へば
 朝早起きの習慣を造らうと思ふならば、第一に實
 行をする、五時と定めたら何でも五時に起
 きて見る、眠くつて耐えられなければ、食事後に
 又寝るとも、兎に角躊躇せずに起きて見る、それ
 を度々繰り返して居る中には、自然に習慣が付き
 ます、若し折角五時に目が覺めても、起きやうか
 何うしやうかと、床の中でぐづん／＼して居るやう
 では、何日になつても到底從來の悪習を打破ると
 云ふことが出来ませぬ、語學を勉強する場合にも
 一日に三時間勉強するとしても、一度にウンと勉

強して、後の捨て、置くと思ふ遣り方は不可ませ
 ん、三十分勉強して又間を隔て、三十分勉強する
 と云ふやうに、度々に切つて練習することが肝要
 であります、何故斯様に時間を切る必要か
 と云ひますと、詰り練習と練習との間に、我々の
 神經系統に營養作用が行はれ、其爲に習慣の道が
 早く固まるのであらうと思ひます、一遍練習して
 道が附いたら、其後の練習に因つて其道を完全
 し、深くして行くことになるのであらうと思ひま
 す、ダウインの自傳に、三十になる時分までは、
 詩歌に大なる興味を以て見たが、此頃（老後）は
 一向に面白味を感じなくなつた、畢竟是れは學問
 上の研究に熱心になつた爲めで、詩歌上に趣味を
 失つたのは、自分の幸福の滅殺であると思ひ、
 るが、これなどは一遍出来た習慣の道も、その練
 習が途絶すると、自然に薄くなつて行くと云ふ、
 適例であると思ひます。

▲悪習を破る法 一旦附いた悪い習慣を廢めやう
 と思ふならば、直に廢めなければ不可ません、煙
 草が健康に悪いことは萬々承知して居る、今度は

非常な決心を持つて廢めやうと思つたら、斷然と實行する、禁煙は一時にした方が宜いか、徐々にした方が宜いかと云ふのは、屢々起る問題であります、これは一時に廢めた方が宜しい、何故ならば、一遍でも繰り返すのは、習慣の道をそれだけ深くして行く道理です、さうして一旦廢たら誘惑を避け、如何なる場合にも、例外を許さない此例外を許さないと云とを、亞米利加の學者が、恰も毬に糸を巻く様なもので、絶えず繰り出して巻いて居る糸も、一寸落すと忽ち解けて了ふ、習慣を改める上に例外と云ふ事を許す可からざるは、此毬に於けると同じである、と云つて居ります、次に自己に暗示を興へると云ふことが最も必要です例之は此事は自分は必ず仕遂げて見せると云ふ暗示を興へ、其決心を強うする爲には、特に交友に吹聴するとか、煙草の代りに何か外の物で氣を紛らすとか、有らゆる方法を講ずるのであります、よく新聞の廣告に「爾今禁煙」とか「爾今禁煙」とか出て居ります、あれなどは何も廣告までして吹聴するには及びさうもないやうに思はれますが、詰り自

己の弱點を補はんとする方法に外ならぬのです。▲習慣と文明 習慣と文明とは何う云ふ關係があるかと云ふに、是れまでの習慣を破らない方にするのには、保守的之を廢めて新しい習慣を拵へやうとするは、進歩的で、此二方面を好く調和し得て、始めて一國の文明を進むることが出来るので、國粹保存論者は、在來の習慣を保たんとし、又社會の先覺者と稱する人は、新しい習慣を造らんとして居る、此二方面が調和を缺き、保守の方面が極端に走れば、其國の進歩は停滞し新しい習慣を造らんとすると急なれば國民性を害します、國家も古くなる人間と同じく古くなればなるほど、舊習を打破することが難かしく、同時に新らしい習慣を造ることも困難であります、支那の如きは即ちその一例たるを免れません、英吉利は舊習を破らぬやうに守つて行くのが上手で、亞米利加は新らしい習慣を造つて行くのは上手です、偕て我日本は幸にして舊い習慣を維持する上にも新らしい習慣を造る上にも、比較的都合の好い位地に立つて居るので、我々は此二ツの

方面を巧みに調和して、國家の發達を計ねばならぬと思ひます。

新入學兒童

藤井 利譽

百花笑を含む春陽四月の好季節に際し父兄は各々其愛兒を活潑なる團隊生活の新天地に送るのである、されば兒童の胸には小さいながらも多少の喜悅と希望とが閃めき同時に父兄は其幸福を祈り且つ其前途を慮るの念切なるものがあらう、毎年の事ではあるが此の時期は特に父兄の心せらるべき大切の場合であるが故に更めて左に要項の要求を掲げ一般の參考に供するのは時節柄必ずしも無益の業でないと思ふ。

▲學校と家庭の連絡 學校の教育方針と家庭の教養とが相背馳するやうでは到底教育の効果は擧るものでない、だから父兄は常に學校と協力して兒童を善導せねばならぬ例へば其兒童にして非常の

惡癖がある場合父兄は包まず其心身狀態に就て學校に打明けるが好い又學校の立場としては兒童の個性觀察は寧ろ校庭を中心とする教員の方が比較的正確を得るものであるから思當事があれば忌憚なく父兄の方へ注意を與へることは勿論である是れ家庭の觀察なるものは親子の感情として動もすれば一方に偏し校庭に於ける公平無私の觀察には及ぶべくもない尤も當校に於ては春秋二季各自父兄を招請して種々の注意を與ることとしてゐるが尙平注と雖も時々學校を參觀して愛兒の學習狀態其他の動作を見届るが好いと思ふ、尙通信簿を嚴重に檢べ且成るべく保存して其進歩を樂ましむるやうにしたなら従つて學績の上に尠がらざる好果を及ぼすであらうと思ふ。

▲家庭教育と學校中心 父兄が家庭にありて其子弟を訓育するには力めて學校を中心とし決して兒童の面前に於て學校を非難したり或は教師の陰口杯を言つてはならぬ、兒童の親念にして既に學校を輕んずるの風を生せば根本的に學校教育は破壊されるゝの結果を來すのである、倘し學校の要求と

か處置とかに就て萬一不審の事ある時は直接學校に問ひ質して貰ひたい、又學校用品の如きは成べく現品を以て給與し且其の所要に不足することなきやう常に注意を拂ひ假りにも金銭を持たしめぬやうに勉めねばならぬ、抑々兒童に於ける惡癖の根源は多く金銭携帯に首まるものである。

▲服装と携帯品 當校の如きは多く中流以上の家庭の兒女を以て満されて居る所から兒童の品性素行に關しては餘り懸念する所なきも勢ひ服装の華美に失する恐れがある此事に關しては學校として勗て質素輕便を奨勵したとへ式日といへども華美に流れざるやう常に注意を怠らぬのであるが、どうも家庭各々の習俗として此事が未だ十分に省られないのは遺憾である併し兒童をして健全なる發達を遂しめやうとするのは尤も父兄の注意すべき所であらう、且携帯品等の出し入れに就ても能ふだけ人手を借らず生徒自身をして實行せしむることとは難く其獨立心に何等かの効果を齎すものたるを以て父兄は常に注意すべきである、それから兒童の習ひとして能く携帯品を遺失することが多い

から傘と云はず辨當といはず其所持品には一々姓名を記入すべきである。

▲機會利用の好時期 兒童をして新入學を其一新期と覺らしむる事は極めて必要であると思ふ、所謂放恣なる自由生活より轉じて稍々秩序的の新生涯に入るのであるから實際此機會を利用して諸多の惡癖などを矯正するには其効果顯著なるものありと信ずる、例へば朝寢、間食、泣癖其他あらゆる從來の惡習慣を一掃することは比較的容易で「言ふことを聽かねば先生に告げる」など云ふのは即ち親の權威を自ら抛つ結果に歸するから寧ろ語を轉じてあなたには學校にあがるやうになつたではありませぬか」など勵ますのは元來一些事のやうであるが却々ききめがあると思ふ。

▲家庭自身の注意 抑々家庭の良否は直に兒童の品性其他學業の成績にも多大の關係を有するのみならず、特に家長の一舉一動は深き印象を與へるものであるから言語動作は勿論衣服飲食等の細事に至るまで苟も浮華輕佻の風が有てはならない、左れば學校の往復などには勉めて徒歩を奨勵し縦

し雨天の日と雖も出來得るかぎり車に依らず質實剛健の風を養ふべきである、勿論衛生上の注意は云ふまでもない。

概略以上の事柄は、此の時期に於て當然父兄の一期は學校でも成るだけ校風に慣れるやうに寛なる取扱ひをなし居れば家庭に於ても其旨を含み餘りに監督嚴格に失せぬやうに注意ありたい是れ教育上よりするも將に衛生上よりするも極めて必要な事柄である。

支那の婦人と子と もに就いて

法貴夫人

私は昨年まで四年ばかりの間支那の北京に生活して居りましたが、ホンのお供で参りましたのでありますから別段御話するやうな材料も持ちませぬ、又斯ういふ席に出まして皆さんの前でお話し

たこともございませぬから何を申して宜いのか少しも分りませぬが、只ホンの見て参りました支那の婦人と子供のことを申上げたいと思ひます。支那の上流の婦人は御承知の通り深窓の下に育立ちまして平生自分の家に居ります時でも一番奥の方に住んで居ります、滅多に表の方に出るやうなことはありませぬ、況して男の人などに遭うといふことはありませぬ、奥さん同志は大變親密にして居るやうな方でも其奥さんの良人と互に知らないやうな有様でありまして又良人の方でもそれが風習でありますを敢て怪しむこともなく皆普通のことになつて居ります、さういふ風に男と席を交へるといふことは決して致しませぬ、それでありますから商品陳列所のやうな物が出來ましても何日が女の見る日で何日が男の日と極つて居るのでございませぬ、イツでございませぬか、岡山の孤兒院が参りまして活動寫眞を致しました時なども矢張りさういふ風に幾日は女の日と云ふやうに分けました、分けて致しませぬと女は一人も参りませぬ、或時私が或る女學校に参りまして

色々話をして居りますと……教師は無論女ばかりでござりますが、すると幹事が隣の部屋から大きな聲をして話を仕掛ける、何か相談があるならコチラへ来ればよいのにと思ひましたが這入つて参りませぬで矢張り大きな聲で言ふのであります、段々考へて見ますと男女七歳にして席を同合せすといふことを守つて居るのでございませす、さうして男の幹事は用が濟むと隣の部屋からサツ／＼と出て行つて仕舞ひませす、さういふ有様であります、上流の婦人になりませすと家に澤山の腰元を使つて、大臣といふやうな者になりませすと、少し仰山のやうでありますが召使が殆どウヨ／＼して居ると言つてよい位居りました或は煙草を付ける女、お茶を酌む女、お菓子を出す女と云ふやうに澤山居つて奥さんは人形のやうにチャンとして何もしない、斯う云ふやうに自分で總て手を下さないで何もしいない云ふのが上品だと思つて居るのじありますから随つて運動不足で日本の婦人のやうに庭に出て活潑にテニスなどをするといふやうなことはしない、この運動の不足といふものは非常

なものであるから何れの婦人の顔の色を見ても眞青で御座います。其眞青な顔へお白粉をベタ／＼眞白に付けて兩頬に頬紅を差して居るのでありますから遠くから見ると奇麗であります、殆ど血と自然の綺麗なのではないのであります、殆ど血の氣の無いやうな顔色であります、でありますから男の支那人が宅に参りまして日本の婦人を見ると實に活き／＼してよい顔色であるときよく云ひ云ひいたしました。既に自國の人も是等のオカシな事には氣が付いて居るのであります。頭はどんなかと申しますと、鬘は満州人と漢人に依つて違ひますが、斯う云ふ風に鬘を被つたやうな鬘であります、後の方に圓く結つたのも御座います、いづれも廻りをズツと引詰めまして油をたくさん付けて髪の毛が亂れないやうに綺麗になで付けて居ります芝居などに参りますと側に女中が附いて居りますして水と刷毛を持つて居りました始終奥様の頭を撫で、居ります、それから著物は非常に華美な色で、四十位までは緋の著物を著ます、緋の緞子とか縞子だとか奇麗な刺繡をしたものを着て居りま

す、それで頭には奇麗な簪をさして眞白にお白粉を付けて居る婦人が五六人も集つて居ります。随分奇麗でございませう、日本の婦人が斯ういふ服装をして居ると喪中でございませうか、言つて聞きます、向かう見ると日本の婦人の着物は地味に淋しく見えるので御座います、さふ云ふ風に着物も派手やかでございませう、室内の裝飾なども矢張り其通り奇麗でございませう、喪中などには白いものを掛けますが、平生は大概テール掛でも椅子でも緋の色のやうな極くハデやかなものを用ゐて居ります、坐團蒲なども矢張り赤いのでございませう、餘程赤い色を好むのでございませう、家の廻りの拵へ方なども青だの赤だの赤いので塗立て、日本で申しますと極彩色の家が並んで居るやうであります、赤い地の所へ金色の文字を出してあるからピカ／＼して奇麗でございませう、さう云ふ奇麗な町でございませうのに昨年でございましたか西太后が崩御になりました時などは一夜の中に町の赤い裝飾や何かをすべて白色に塗りかへましたから町の様子が非常に淋しくなりました、之は詩り天子

の崩御を人民が哀んで居るといふ情を表したのでございませう、總てさういふ風に着物でも家でも何んでも華美にするといふことは外界の關係から來たのだらうと思ひます、御承知の通り北京は春になりまして櫻が咲くではなし秋になりましても楓の紅葉を見るではなく實に満目蕭寥と云ふ光景を現はして居ります、故室内衣服を華やかにして樂みを内に求めて居るので御座います、それに引替へ日本では何處を見ても縁色の中に花が咲いて居りまして私共一家の者もこの美して春に遭ひまして子供迄喜んで居ります。支那の婦人は深窓の裡に育ちまして餘り他人に顔を合せない、ソソなら卑屈でモデ／＼して居るだらうとチヨツと考へますが、所が中々さうでありません、宴會や何かに出ますと一つ卓子を圍んで活潑に元氣よく話します、色々の材料を持つて來て話を仕掛けます、決して人を外らすと云ふことはない、招いたお客と共に一日食事をしたが話をして喜ばせる、中々交際が上手でございませう、チヨツト矛盾して居るかと思ひますが、矢張り

りそれは支那の家族制度がア、いふ風でございませう、から養はれたのではないかと思ふ、支那では一軒の家に澤山家族が居る程自慢だといふことでございませう、例へば息子が三人あるとすると其三人の息子に各々嫁を貰つて一家の内に住んで居るといふのが宜いとしてあるのださうであります、さうして互に其嫁同志が仲好く姑に事へる、多少自分へ氣まづいことがあつても忌やな顔をしないでニコ／＼笑つて暮す、又嫁の姑に事へると云ふことは餘程八釜しい風習になつて居る、嫁と姑が一緒に餘所へ行くと嫁は腰を掛けることも出来な、い、姑の側に立つて居つて姑が煙草の火を點けてやり菓子を取つてやるといふ風に至れり盡せり能く盡すのであります、支那の婦人はさういふ風になんか交際が上手でございませう。

それから子供でございませうが、子供は何處の國の子供でも可愛うございませうが、支那の子供も可愛らしうございませう、顔はフツクリとふくれて垂頬になつて居つて紅を付けて芥子坊子を七つも八つも置いて、さうして此位しか毛のないのを根の處

でキリ／＼と巻いて居る、さういふ風にして遊んで居る所などは大變に可愛い、丁度アノ繪に書いてある唐子のやうであります、子供の着物は上下二つで、下は股引のやうになつて上は日本の被布みたやうなもので二重になつて居りまして冬は股引も足袋も皆綿入で風が何處からも這入らないやうになつて居る、綿入の足袋に靴を穿かせる、夏でも股引を取らないことになつて居る、夏などは下等社會の子供が表に寝轉んで遊んで居るのでも皆股引と足袋は穿いて居る、之は只涼えないと云ふばかりでなくアチラには悪い虫が居ります、所謂蛇蝎の如しと云ふ蝎といふ危険な虫が居ります、若し其虫にかまれるといふと其かまれた部分を切つて捨てなければ其毒が全身に廻ると云ふことがありますからそれで足を包んで置くのであらうと思ひます、それから女の子でも十五六位までの髪は引き詰めにしまして三つ組みに組んで垂して其末の方を赤い糸で括つて居ります、着物は平常は十四五になりましても淺黄のキャラマの著物を着て居る、只女の子のは袖口の先にリボンなど

を付けて居る、支那では總て不斷の着物は淺黃のキヤラコと極つて居ります、それですから何枚拵へても同じ事です、それから拵へないといふことになら、學校には教場の壁に「脂粉を施すを禁す」衣服は淺黃のキヤラコとすなど、書いてありまして濫りに華奢に流れることを禁じて居ります、でありますから見ても氣持のよいやうに拵つて居ります、子供の玩具は矢張り日本と同じやうでございます、ましてまたソンのに進んで居りませぬか、木だの土だの馬や馬車などを拵へて御座います、拵へ方が粗漏でございますから價も安い、近頃日本の玩具が流行で何處の見世でも賣つて居り、上流の方に歡迎されて居ります、上流の子供には矢張りお伴が付いて居りますが下流の子供になると同じやうであります、城外に川がありますから夏などは其川の邊へ行つて澤山遊んで居る、私共が遊びに行きました時に子供が大勢川に飛込んで遊んで居りましたが頻りに錢を投げ込んで呉れと申しますから投げてやりましたら競争して急いで潜つて拾つて來るのであります、さういふとは中々機敏

でございます。それから食物でございますが、食物は上流の人は銘々家に料理番を置いて拵へて居りますけれども下等社會になりますと振り賣の物を買つて戴いて居ります、ナゼかといふとアチラは燃料が御座いませぬ。薪炭が非常に高うございます、お粥から肉の焼いたのからお汁といふやうな物まで、總て賣に來ますから、それを賣つて戴いた方が經濟でございます、貧民の家では御飯を炊かない、只お湯だけ沸す、さういふ風に振賣りから買つて食べますから兩親とも外へ出て働く阿父さんは馬丁に出て阿母さんは子守に行くといふやうな者は僅かに二三錢で振賣の物で濟すからチヨツとも手が掛らないのでございます。

倫敦の母學校

新歸朝者

田中太郎氏談

淫澤男爵の依頼により、英國倫敦を始め其他各國

の感化院、貧民窟等を視察し、此程歸朝したる田中太郎氏は、某記者に對して倫敦に於ける母學校の模様を左の如く語りたり。

▲母の爲の學校 英國倫敦セントバンクラスの貧民窟チャルトンストリートに母の學校と云へる私立の一學校あり、其創立は千九百七年六月にして、現在の校長はミス、コールスとて極めて徳望高き婦人なるが學校の資金は全部慈善により毎週水木の二回、貧民の母を集め育児法より料理法までも教授し居るも生徒は月謝を要せざるのみか、教授場にて要する材料は總て學校より支給され居り、毎回六十名程の貧兒の母が登校し左の科目に就て教授を受け居れり。

(水曜日)編物、裁縫、育児法、看護法

(木曜日)貧民の家庭に應用すべき料理法

而して授業時間は午後二時より同四時までの間にして毎木曜日の夜間を利用し、貧兒の父を集め、産婦の取扱、賃金を浪費せざる事、子供を虐待せざること等總て道德に關する講話を爲し居れるが成績極めてよく、附近の貧民は、太くコールス嬢

の徳を慕ひ居れり。

▲面白き教科書 同校の生徒たるべき母は、多く歳老いたる者のみなれば之等に教ふるは、勞多くして功少なきを以て、教科書の如きものなるべく簡易を旨とし、殆んど繪説き話の如きものとし教

ゆるを常とせり其一例をあぐれば「赤ん坊に過食させざるな」と云へる表題の下に實物大の嬰兒の胃袋を描き、一ヶ月より六ヶ月、一ヶ月目に區別

し、傍らには一ヶ月の小兒を描き、一ヶ月の小兒ならば一線、二ヶ月の小兒ならば二線、一ヶ月の小兒には凡そコップに一杯與へても差聞へなしと云

へるが如く、何程無教育なる貧兒の母にも會得し得るやうになしあるなり。

▲旨くて安き料理 美味にして最も安き料理は、如何にして造り得るかと云へる問題の下に、實地の料理を講習する事あり、貧民に斯かることを教

ゆるは、左迄必要な如きも、貧民は比較的賃金を多く得たる時は、副食物などに浪費するもの

多き故、前述の如き問題の下に、なるべく費用を節して味よき調料を爲さしむる事としたるものに

二二

て、此外嬰兒を寢かすに寢臺の如きものもなき爲め、多く不潔なる板の間に寢かし居る由なれば、學校にては麥酒の明函の如きものを壞して、四本の足を附け、寢臺の製法を教授し學校にても之れを製作し、約五十錢位にて貧民に販賣し居るなり。

▲看護婦の巡回 母學校にては嬰兒ある家、若くは産婦ある家へは、時々看護婦を巡回せしめ、適當なる注意を與へ、毎週火曜金曜の兩日に母が小兒を連れて登校する際、校醫は簡易に小兒を診察し、病兒ある時は、相當なる醫師の診斷を受けしむるやう注意し居り、彼等貧民の食事は極めて粗末なれば營養不良のもの多く、産前三ヶ月、産後三ヶ月のものには學校より日本の十四錢位にて立派なる焼肉新鮮なる野菜等を供し居れりと云ふ。

保育叢話 (承前)

光藤 夫人

男女混合遊戯

男子は骨格選ふして如何にも男子らしく、女はつたかづらの大木にまとはるが如く、優にやさしく、なよなよとは本邦人の理想かのように思はれま
す、其の爲男子は幼少の頃より力を練るの運動を
多くし、女はなるたけ、やさしくしとやかにと思
ふ餘りに、極幼少の頃でさへ、一寸遊戯をするに
しても、お前は女だのにそんなお轉變な眞似をし
てと、すべ之を抑壓する風があるかと思はれます。
其れがやがて身體薄弱の基とはなりはしますまい
か。
上流中流下流と區別をして見ますれば、上流の家
庭に生立ちし女ほど、身體ケシヤになよなよと
其の體格も自然と薄弱で御座います、中流下流
となる程、強健な傾向があります、之は平素生活
状態によることは無論で御座いますが、何れの社

會を通じても、十二三歳位になるまでは男女餘り區別を立てない方がよいかと存じます。男子が徒歩競争をやれば、女兒も其と同じに負けじ劣らじと一生懸命汗水たらしてかける。男兒が垣根に上れば女も跡を追ふて上り、木登をすれば共にやるといふ様に、何等束縛を與へないで共同の運動をさしておく方が、身體を鍛へるといふ方針に叶ふて、其の兒の將來の幸福ではありますまいか。或は異説があるかも知れませぬ。女子は女らしきといふは性來なり、しかるに木にも上る垣根を傳ふ、何等のお轉婆ぞ、何等の粗暴ぞと。私は思ひます幼男が木に登りてすべてのものを眼下に見て、其の快感を覺ゆると同じく、女兒も其の一寸困難なる事業をなして、衷心愉快に堪へざるものがあるのは、其の心理状態は同一で、男女によりて區別するの必要はないと思ひます。只々其の危険のある事はよく注意を與へなければなりません。之は男女によりて分つべきものではないので御座います。已に垣上り、屋根上り、をするのですから、其の他石投げ毬投げ相撲取り何等分つ所は御座い

ません。只快活を主として遊ばした方が女兒の爲かと思はれます。かゝる遊戯の中にも女兒の優美なる點は消滅するものでは御座いません。矢張女兒は女兒らしき性情を有して、其の上に身體の鍛練をされるのでありますから、まあ十歳位までは、私共は男子だからとて、女子だからとて、其の間に餘りキビキビした區別は立てず、只其の欲するまゝに、運動し活動さしておきます。兒童をして成丈下女下男に接せしめざる事すべての下女下男の品性の劣等なる事は誰しも知る所で其の筈で御座ります。それをしも我が家の一員となす様になりましたは、子供をして少しも之に接せしめないといふ事は出来ません。子供をして之に接せしめるといふ事は實に危険が多いので御座います。其の危険の多い下女等に我女兒を接せしめざるべからざる場合には母親は充分の注意を拂はなければなりません。決して少しでも、我身の安逸など

を貪る爲に面倒を見るを厭ふて子供を下女等に預ける様な事があつてはなりません。常に十二分の注意をなして之を監視し、子供の身心を害ふ如き事をなす場合には訓戒を加へなければなりません。

一體子供といふものは、自分の行末を思ふて善行をすゝめ悪行をこらされるといふ父母或は教師よりか自分の思ふ儘の出来得るつまり我儘のなし得らるゝ下女下男の許にゆきたがる傾向を持ちはしまいかと存じます。私共の狭い経験ではどうも其の傾きがあるかと存じます。外様の預りし子供も宅の子供も皆どうも下女室によく入り込みて、いゝろんな話などするのを見受けます。

そこで私共はとも下女室に入るのを防ぎきれなければ、一層下女より教化せねばなるまいと存じます。

そこで私は下女教育を始めました。勿論下女教育として、何もそう面倒なものでなくて、只平常に其の言行に氣をつけると一つは夜分二時間位下女に勉強の時間を與へておきます。讀書習字位にし

て時々修身のお話をして聞かせます、此の際を利き用して、よく子供に對する心得をふきこむので御座います。一體無教育なる下女達は、何か一つ主人より言はれるにしても、叱られると思へば、腹を立て易く、教へられると思へば、少しも腹を立てない上に、喜んで改心します、そこで少し面倒でも私は大抵晝間いかゞはしい言行のありました事を覚えて置きました、夜分教へる時に何か他の話から引張り出して「今日晝かしらんお前はかゝる行がありましたがアネはよくない、將來はこういふ風にするのです」と懇ろに教へてやりますれば、少しも腹を立てないで、其の行を改めます。まあ私共の様な貧乏では家庭教師など雇入れて思ふ存分立派な教化を施すといふ事も出来兼ねますから、種々考へまして、自己の身心を勞するを厭はず、少しづつでも面倒を見てやりました、よい方に導き、従つて子供に悪感化を興へるといふ事を避けて居ります。

鼻水をたらさせぬ工夫昔から鼻たらし子といへる諺さへありまして、子

供はよく鼻水をたらし、時には濃く青くなつて、
 太く鼻下にブラ／＼して、口中にさへ入る事があ
 りますが、子供は一向平氣なを見受ける事が御
 座います。少し氣をつけらるゝ家には、常に奇麗
 に鼻下を掃除して居らるゝ子供も多いので御座い
 ますが、中にはづいぶん平氣で、一向親御も氣に
 止められない方もあるかの様見受けられます。
 身體の清潔は何處も同じで、鼻であらうが、眼で
 あらうが、口であらうが、手であらうが、皆々清ら
 かにしておくべきは無論ですが、殊にすべて身體
 の粘膜などは一層潔らかにしてやる必要があると
 思ひます。いづれの部でも不潔より種々の疾病を
 惹き起す事がありますが、殊に此の鼻を不潔にし
 て、汗が出れば出しておくと、等閑にし
 ておきますれば、慢性鼻加多兒となりて、終に粘
 膜が糜爛もするのは當然の結果で御座います、
 甚しくなりますと、出血などする事が御座いま
 す。
 其の害が只鼻丈ならばまだしもで御座います、
 身體は箇々獨立のものでは御座いませんから、一

所悪くしますと、必ず他を害します。胃がわるけ
 れば、腦がわるくなると同じで、鼻孔が悪くなり
 ますと、必ず腦と咽喉を損ひます。
 私共の第三兒はよく咽喉を痛めます、少し時候
 の不順とか、今頃の様に向寒の折などには、必ず
 咽喉を害して、セキが大變出ます。夜は濕布をさ
 せて寝につけば吸入をなし、大騒して其の治療に
 つとめます。やつと治したかと思へば、又すぐコ
 ン／＼とセキが出る。極幼少の時慢性の氣管支加
 多兒を疾ませし爲め、かくも度々咽喉の疾を憂ふ
 るかを、寒さに向く時などは、殆んど吸入器を使
 用せぬ日はないといふ位で御座いましたが、不圖
 鼻孔をよく明けないといけなないといふ事を聞きま
 した。成程そうに違ひない、コン／＼よくせきの
 出るのも一つは常に鼻孔が塞がつて居る其の爲め
 に相違ないと思ひました。
 一體子供は鼻をかむ事が嫌いなものと見えて、ハ
 ンカチーフとか紙とか以て子供の面に向けるとす
 ぐ横を向く、或は逃げるといふ方が多いかと存じ
 ます。私共の子供も矢張して大きな子供はそう

でもありませんが、幼少な子はどうもいやがつて仕方がありません。そこで鼻汁を取るにも、只根からフンと取除く事が出来ないで、只鼻孔にあつても外部にさへ出なければよい位な取方をする、格別子守や下女に預けておきますれば、ソレはソレは無責任な仕方をするのが多い。それで鼻孔は常に塞がつて居るといふ始末になり易い。其の爲め咽喉も損へば氣管も患ひ、つひには取かへしのかかぬ大患となるといふ事がないでもない。ソコで私は遅滞ながら其を了解しますと同時に、成丈子供に鼻汁をたらさぬ様奨勵します。其の仕方は大きな子には鼻孔の塞がる害を説き、幼少な子には、イ、子は鼻チンをやりますね位から、種種手をかへ品をかへて、逃げさせぬ工夫をいたします。それから比較的咽喉を痛める事が減じました。

それから今一つ脳に影響します事は、遂に已に皆様も御存じで、大きな勉強盛りの書生が、鼻を害して記憶力が減じたとかいふ事は、新紙之を傳へ、雑誌之を報じて、今更らしく申し上げる程の事も

御座いませぬが、此の家庭にある幼児に影響する事も亦又甚しいので御座います。

私はよく子供が何も別に異状はないのに、やかましくねだつたり、何かしてむづかる事が御座いますのを見受けますが、大抵鼻孔が塞がつて居るに原因するのと知りまして、すぐ鼻孔を明けてやりますと快活になる事が御座います。

少しの注意や手数を厭ふて、鼻汁を孔にため、其の快活なる性情を不快に陥らしめ、甚しきは疾病の原因となりて、大事に至らしめる事さへないと限りませぬから、世の子を持たるゝ母親は、よ注意すべき事であらうと思ひます。殊に我が愛兒を人手に預けらるゝ方は、十二分の注意が肝要であらうと存じます。

家庭に於ける花壇

東京府農事試験場技手談

▲家庭に大仕掛の花壇は一寸六ヶ敷い、それと云

ふのは實際試て見ると毛氈花壇には随分花が入用なもので、とても五十株や百株では足りない、然し一坪位のものなら左したる事も無いから庭先などに設けて面白からう、普通地面より五寸位の高さに土を積んで周囲を芝で圍ふ、形は庭の模様にも依るし又各人の嗜好もあるから如何様とも、角形なり圓形なりそれは自由であるが、花の植付けは充分注意して色の配合を誤らぬ様にせねば見栄えがせぬ又成るべくは花で一の模様とか又はある形を現はす様にしたら面白からう。

▲今頃美しく花壇を飾る花は大抵秋播きのもので温室内で育てたものか又は球根類である、従て春の花壇は比較的到手と費用が要るが、然し秋の花壇は容易に出来る、春の花で培養の樂なのは無論球根類でヒヤシンス、チユリツブ、アネモネ、水仙等が主である、花壇の縁には雛菊が可いと思ふ、これは宿根であるから、手数が要らぬ、又パンデー等も面白い、それで春の花壇は此等の花を中心にして作れば随分立派なもの出来る。

▲秋の花も昨今種子を下す頃であるが、大抵六七

月位から咲き初めて十月末位までは絶えず續いて咲くので、秋の花壇は中々賑かである、先づ素人に簡單にして出来るものは百日草、るぞ菊、天人菊、貝細工、ペチユニヤ、松葉牡丹、金魚草、美女櫻、葉鶏頭、サルピヤ、コスモス等で苗床に唯播て置けば充分なもの計りである。

▲肥料は兎角面倒であるが、而し一二回施肥すると結果が非常に違ふから、是非夫れだけは必要である、素人に都合の可いのは油糟で、之れは日蔭に水と交せて腐らして置いたものを使用ふ、唯一寸注意しなければならぬ事は種子の善悪で、普通草花の種子は一年以上も経過と發芽せぬから十分信用ある花屋から種子は買ひ入れる必要がある。

小鳥の話

川生

盆栽や園藝も樂しみな物ですが小鳥を養ふのは又この中に一種云ふ可からざる樂しみのあるもので

す。小供の方などの學校の暇に餌をやり水をやりなど小鳥にしまするのは身體上の健康にも精神上にも益する所決して些小ではないと思ひます。

鳥にも御存知の通りいろいろの種類の鳥があつて大小の別もありました。或はその羽毛の美を愛翫する鳥もありました。或は又その囀へづり聲をきゝてたのしむ種類もあります。驚のやうな猛鳥もあります。れば鳩のやうなやさしい鳥もあります。今左に普通の小鳥で一寸飼養しやすいやうなもの二三種をのべて見ませう。勿論詳細な事はとても一朝一夕にかきつくせるものでもありませんからたい御たのしみに小鳥を飼つて見やうと云ふ方の御参考にまでなれば此の上もない幸いです。

紅雀

極普通の小鳥で黄雀と云ふのより又小さい可愛らしい小鳥です。小鳥の中でも比較的小さい部類に属する種類で色は薄色に細かなる白と赤との斑點があります。全身に紅色がかゝり赤い小さい斑點のたくさんあるのがよいとしてあります。囀り方は雌はまるで雀のやうにジュー〜と申しますが

雄は中々よい可愛らしい聲で囀ります。囀もそう悪くなく殊に羽毛が頗る美麗ですから愛玩用の小鳥として大層珍重せられてをります。あまり丈夫な鳥ではありませんが寒中暖かにしておけばめつたに死ぬものではありません。餌は粟又は稗などですから大して手のかゝる事ありません。

文鳥

之れは唐鳥の一つにてむかしは大層愛玩されたものだと云ふます。形は大體鸞に似てゐて頭ら黒く頬丸くて白色です。腹は白きのも薄あかきのもあります。嘴と足とは薄赤色にて脊はねすみ色です。餌は粒餌にて摺餌にてもよろし。

金絲雀

かなりやは西洋から渡つてきた鳥の中の一つで最も普通のものです。之には種々の珍らしい種類もあつて従つて價も随分不廉のものもあります。毛羽は黄色で囀りも面白いものです。殊に此の鳥は籠の中で卵から雛をかへす鳥ですから一層樂しみの深いものです。雌の卵を産みました時は雄は他の籠にうつして卵がかへりましたら雄をまた元

の籠にかへすのです之れは中にはくせの悪い雄鳥
は卵をこわしたり食べたりする事がありますから
です雛がかへりましたら成可く早く雄をもとの籠
に即雛鳥と一所にする方がよいのですあまりお
そくもどすと雛をいじめていけません。餌は粟黍
の類に青味には葉のまゝを與へるのです今頃なら
ば「ハコベ」などはその喜んで食べる所ですその外
少しの水をやつておけばよいのです。

十四まつ

これ大層小さな鳥で別に大して愛玩すべき羽毛の
美もなく囀づりも面白い鳥ではありませんがたい
よく巢引をする小鳥です。巢引とは籠の中で雛を
かへす事を云ふので巢引の注意は金絲雀と大體同
じ事です。餌も金絲雀と同じ事で粟や黍の類を與
へ青味を與へてをけば澤山です雛をよくかへしま
すから飼養して面白い鳥です。

山雀

山からは丁度雀程の大きなにて羽毛の色は棒色に
白黒又は濃鼠の斑点があります。此の鳥は色々の
藝を仕込む事のできる小鳥にして淺草の花屋敷に

あります山からの藝當などまでゆかずとも籠の中
にて宙返り位の藝は覺えるものです。

鶉

これは普通ありふれた鳥で羽毛はあまり美麗では
ありませんが囀りのよい鳥です。籠の上へは網張
となして下には砂を入れて飼養するのが普通です
朝草の上に露を置いてあるのをふませると聲もよ
く出ると古來申してをります風通りのよい所に籠
を置きあまり太陽に照りつけられるのはよくない
と申します。

その他鳥類白。深山類白。かしら。あほじ。九

官鳥。黄雀等いろ／＼種類があります以上
は皆餌と云つて挿餌でない粟とか黍とかをすぐ
やつておけばよい種類です従つて手数もかゝらず
又挿餌の鳥よりはならして飼養し易いものとなつ
てをります。但し餌の鳥でも挿餌をやつてもよ
いのもあり又時には挿餌を與へる方がよい場合も
あります。次に挿餌の部の二三の小鳥を擧げて
見ませう。

こま鳥

雀より少し大きく全身は赤黒き色に青味をもち頭より喉にかけて赤く夏は鼠色のもあり又然らざるもあり此の鳥は紅雀などが寒氣を嫌ふ反對に暑氣をきらふ者ですから暑中は氣をつけて涼しき所におき飼養し。暑中にはよく目を煩らひますから目をわづらう時には柳の枝の皮をよく煎じ冷して目を洗つてやると全治すと云ふ事です。餌は

一生ゑ 四分

一粉 壹匁

一小松菜等 少量

をよく播り與へるのです近頃はたい水を入れて播りさへすればよいやうに出来てゐる播餌の粉があります。然し小さな播餌で播つて與へるのも面白い樂しみな物です。

此の鳥は全身所謂るり色にて大層美麗な小鳥です。色鳥中インコの類を除きては第一に美しくしい鳥で大きさは鶯位にて喉より腹にかけて白色にて寒氣を恐るゝ鳥なれば冬期は注意にも注意して暖かにしてやらねばなりません。餌は

一生餌八匁。一紛一匁。一あをみ多量。一體生餌の分量を増すに従つて青味の分量をも増すのが普通です。

繡眼兒

之も別段飼養法の大きいむづかしき鳥でもありません。但し罔として用ゆるには春は嘔づらぬやうにし淡白な餌を與へ明るき所に出さず暗所に置いて夏になりましたら生餌を減じ秋になつてはじめて生餌を増すのです。そして郊外などにつれゆけば高音に嘔づります。従つて餌の分量も一定しませんが九月拾月頃には大低左の分量です。

一生餌六分。一粉一匁。一あをみ多量。

角鴟

みづくは梟のやうな形のかかなり大きな鳥です。これも愛玩用でもなく又聲をきくのもありません。が「づく引」として此の鳥を罔としていろ／＼の他の小鳥をとる事が出来ます。秋の日など天氣のよき折角鴟をたづさへ郊外にゆき森の薄暗きところに角鴟を止まらせ置けば種々なる鳥がきます。その近傍にもちのついた小枝を多く置けばそれに

止まりて小鳥は容易にとれます鷹狩のやうな手腕も熟練も要せず一寸面白き遊びです。角鴉は鳥とは耳の有無によつて區別するのです鳥には耳がありません。餌は普通小鳥の肉又は新らしき魚の肉以上はほんの二三に過ぎませんがまたよき折を見て詳しく陳べませう終りに一寸播餌の事を申しませれば生餌は一凡に河又は沼の魚ならばよいのです海の魚は適しません一汎に鮒又は「ハイザゴ」河るびの類を用ひます又粉には玄米一合五勺に糠五合位の割合に致し用ひあをみは大根葉芹などそれれれありますが大抵にてよろし播餌の原料は前述の如く小鳥屋で賣つてをりますから鳥屋より買求める方便利です。鶏の卵をゆで、黄味の所だけを細かに碎き折々與へると小鳥は壯健になります。又籠掃除を忘れてはいけません不潔にすれば羽虫の生ずる原因となりましますし羽虫の生じた時は煙草の煙りを尾の方より逆にふきかける時は大抵羽蟲は死にましますし一度でいけなければ三四度すれば成功します。最後に小鳥の價へは高いのにはきりがありませんが先づ普通。紅雀番ひ七十錢位。

金絲雀番ひ一圓四十錢位より十四まつ番ひ七十錢位。めじろ一羽二十錢位より文鳥番ひ八十錢位よりもつとも之より廉價のも高價のもあります山雀が只今頃ならば雄一羽八十錢位秋になればすつとやすくなります。こま鳥はあらごまで一圓四十錢位の所です。





お伽訓話

不思議の火打石

硯 山 人

或る日の事一人の兵隊様が田舎道を散歩して居りました。すると向うから御婆様が一人杖にもたれながらこちらへ参りました。そして兵隊様にゆきあひました時御婆様は丁寧ていねいに腰こしをかゝめまして。

「私わたくしはあなたに一つの御願おねがひひが御座ござります何卒なにとぞきいて下くだされませんか。」
と申まをしますと此この兵隊へいたい様は大層たいそうよい人ひとでしたから喜よろこんで。

「私わたくしに出来できます事ことならば何なんなりとも。」
と申まをしますと御婆おばあ様は自分じぶんの持もつてゐる杖つえでむかうに見みえてゐました大きな大おほ

大きな杉の木を指しながら。

「あの高い大きな杉の木が御見えになりますか。あの木の頂上まで御登りになると大きなく洞穴があります。私はあなたの腰の廻りに紐を結んでをきますからその洞穴からドンく下の方へ降つてあらつしやると大層廣々とした所に出ます。儲そこには三つの部屋があります。先づ第一番目の戸を御開きになるとその部屋の眞中に大きな箱が一つ置いてありますそしてその箱の上に犬が一匹番をしてをります。けれどもその犬は大變大きなまるで御皿のやうな目を持つてゐます。けれ共あなたはちつとも恐れる事はありません私はあなたに此の前掛をあげます此の前掛を擴げて其の犬を此の前掛の上に置きさへすればちつとも悪い事はしませんそしてだまつて此の部屋を通つて御仕舞なさい。その次の部屋に御はいりになるとやつぱり眞ん中に大きな箱が置いてありますそしてやつぱり犬が一匹番をして居ります。此の犬はまるで御盆のやうな大きな目を持つてをります。けれ共あなたはちつとも恐れる事は

ありませんやはり前のやうに私の此の前掛を御ひろげになりその上へに犬を抱き下してをけば何とも決してあなたに致しません。もしましたら黙つて早く此の部屋を通り次ぎの第三番目の御部屋に御はいりなさい。此度はまるで水車のやうな大きな目をした犬が御部屋の眞ん中の立派な箱の上にチャンと坐つてゐます。けれ共やはり前になされたやうに此の前掛を擴げその上に抱いて下せば犬は大きな水車のやうな目をパチクリさせますだけで決して咬んだりなど致しません。もしましたらその箱をあけて御覽なさい中にはたくさん金銀やら寶石やらいろいろの立派な物が一杯はいつてゐますからあなたが出来るだけほしいだけもつてゐらつしやい。それから一つ私の御願が御座ります」

と云つて御婆様は兵隊様の顔を見上げました。兵隊様は何やら煙にまかれたやうな氣が致しましてびっくりして御婆様の顔をぼんやりと見つめてをりました。御婆様は更に言葉をつゞけました。

「御頼みと云ふのは他でも御座りませんがその大きな水車のやうな目をした犬の側に小さな火打石がありますからどうぞそれを忘れずに持つて來て下さいませ。」

と頼みました。そこで兵隊様は自分の腰の廻りに紐を結んで貰ひましてどんどんとその杉の木の高い／＼頂上まで登つてゆきました。すると御婆様の云ひました通り大きな洞穴がありました。皆は此の所だなと思ひながらその洞穴から下の方へと降りてゆきました。下まで降りきりますと御婆様の云つた通り廣い／＼場所があつて三つの室がありました。先づ第一番目の御部屋をあけて見ますると眞中に立派な箱がありました。その上に御皿のやうな大きな目をした犬が番をしてをりました。兵隊様は竝ぞと思ひましたから先刻御婆様から貰ひました前掛を出してひろげその上にエンヤラヤと犬を抱き下ろしました。すると犬は何もしませんでたゞ大きな目をパチ／＼させ兵隊様のします事を見てをりました。そこで兵隊様は御婆様に云はれました通り急いで黙つて此の部屋を通

り次ぎの部屋へと参りました。第二番目の御部屋をあけて見ますると此度はまるで御盆のやうな大きな目をした犬がチャンと箱の上に番をしてをりました。兵隊様は又御婆様に教へてもらいました通りに例の前掛を擴げましてその上に此の犬を抱き下しました。すると此の犬も咬みも何も致しません御盆のやうな目をたゞパチクリ／＼／＼させてゐる計りで兵隊様のする事を黙つて視てをりました。そこで兵隊様は急いで此の部屋を通りこし第三番目の部屋へはいりました。此所は今迄の二つの御部屋とちがひまして大層ひろい大層立派な御部屋で御座りました。そして其の眞ん中にはやはり一つの大きな箱が置いてありました。したその上には一匹の犬がチャンと番をしてをりました。兵隊様がはいつて來ますのを見るとその大きな水車のやうな目をぐる／＼廻しまして今にも飛びかゝろうと致しました。そこで兵隊様は急いで例の前掛を擴げまして此の上に犬を抱き下しました。すると不思議にも今迄飛びかゝりそうでした勢の犬が水車のやうな目をぐる／＼と廻す計りでおとなしく致してをります。そこで兵隊様

は箱の蓋をとつて見ましたらば中には御婆様の云ひました通り澤山な金銀やら寶石やらそれはく立派な目の眩ゆい程の物が一ぱいつめて御座りました。兵隊様は大層よろこびましてその金銀やら寶石やら澤山もちましてそれから此度は御婆様からたのまれました火打石を探しにかゝりました。方々探すまでもなく火打石はすぐと見付かりましたから兵隊様は外に待つてゐる御婆様に。

「もうすつかり用意が出来ましたからどうか私の腰にしばつてある紐を外からたぐつて下さいませ」。

と申しました。御婆様は此の聲をきゝまして

「それではそろく〜とたぐりますからおつこちないやうに御用心なさいまし。」と云ひながら外からだんく〜と紐をたぐりはじめました。やがて大分上の方まできましたと思ふ頃どう云ふ拍子でしたか紐がとけまして兵隊様はまつさかさまにおつこちて仕舞ました。やゝしばらくして兵隊様は氣がついて見ますと之は如何に杉の木の中に落ちたとばかり思つて居ましたのに青草のやはらかに茂

つてゐます野原の中央にねてをりました。あたりを見廻しますと自分のそばには火打石と澤山の金銀やら寶石など散らばつてをりました。兵隊様は大層困つて仕舞ました。折角たのまれましたのですから火打石を取つてきましたのに御婆様は影も形も見えませんが火打石を御婆様に渡す事も出来ません。仕方がありませんから石打石と澤山な金銀寶石をもちましてあてどもなくその廣い草原をドン／＼と歩いてゆきました。

やがて二三里もきましたと思ふ頃一人の樵夫の御爺様に出會ひました。そこで兵隊様は丁寧

「どちらへ参りましたら町に出られませうか」

と尋ねますとその御爺様は。

「それは丁度よい都合です。私も町の方に参る所ですがら御一所に参りませう」。

と兵隊様をつれて町へ歸つてきました兵隊様はまた住なれました町へ安全に歸

つてきたのです。昨日までの兵隊様は今は大金持となりました。杉の木の中か
 らたくさんの金やら銀やらを持つてきましたから今は何不自由なく立派な家に
 住ひ立派な着物を着まして毎日／＼楽しく面白く暮してをりました。けれども
 毎日／＼遊んでをりましたからいくら澤山あります金銀もだん／＼と残り少な
 になりました。そこで兵隊様は又いつぞやの杉の木の下にゆき金や銀をどつさ
 り持つてこやうと考へましたからある日の事一人で先日散歩しました田舎道へ
 と出掛けました。ところが草も木も先日と少しも變りはありませんがたゞあの
 大きな／＼杉の木は何處にもありません。それでは場所でも間違ましたのかと
 思ひ方々を探ねましたけれ共どこにもこないだの杉の木は見あたりませんでしたし
 だ。夕方兵隊様は草臥れて家に歸つてきました。今迄は立派な家に住み立派な
 着物を着てをりましたが今は皆賣つて仕舞いまして兵隊様は小さな家を借りて
 住む事となりました。悪い時に悪い事がつくものです。その中兵隊様は
 重い／＼病氣となりました。もう貯への御金も盡き石油を買ふ御錢さへなくな

りましたから薄暗い部屋に兵隊様はランプもつけず一人ツクネンとねてをりました。だんく〜と夜が更けて参りまして今は何もかも全く見えなくなつて仕舞ました。兵隊様はどうかあかりがほしいと思ひいろく〜考へました末フト先日
の火打石の事を思ひ出しました。

「そうく〜あれを打つたら火がでるでせう。」

と獨言を言ひながら火打石をとり出しました。儲て一撃火打石をカチと打ちますと忽ち一匹の犬が枕元にあらはれました。兵隊様は大層びつくり致してよく見ますとこはいかに先日の御皿のやうな目をした犬なのです。

犬何御用で御座りますか。御見受け申す所御病氣の様で御座りますがそれは早速と御薬を持つて参りませう。」

と申すかと思へば又姿は消えてなくなりました。やゝ暫時致しますと御皿のやうな目の犬は口に御薬をくはへ兵隊様の床のそばに又あらはれて。

「私は御薬の番をする犬で御座います。私の番をしてをります箱の中には不老

不死の御藥やらいろ／＼貴い御藥が澤山つめてあります。」

と云ひながら一服の御藥を兵隊様に渡したした。その御藥を飲みますと不思議や今迄は枕も上がらなかつた病人がたちまち元氣づきました。犬はもうどつかへ居なくなり自分の傍には火打石がころがつてゐる計りです。兵隊様はどうも不思議で／＼たまりません此度はカチ／＼と二づ續けて火打石を打ちました。すると又一匹の犬があらはれました。その犬は御盆のやうな大きな目を持つてゐる犬です。そして兵隊様の前にチャンと坐りまして。

「何御用で御座ります。私は食物の番をしてゐます犬です何なりとも持つて参りませう。」

と申すかと思へば又どつかへ消えて仕舞ました。やがて御皿のやうな目をした犬は澤山の御馳走をもつてきました。この犬の番をしてゐました箱は御馳走のはいつてゐる箱なのでした。兵隊様は早速いろ／＼の御馳走をたべ又一層元氣が出ましたから此度は元氣よくカチ／＼と三度火打石を撃ちました。する

と水車みづぐるまのやうな目めをした犬いぬがヒヨツクリ兵隊へいたいさん様の前まへへあらはれ

「何御用なにごようで御座ござります。あなたは大層たいそう汚きたない家いへに御住おすまひになり汚きたない着物きものを召めしてゐらつしたいです。私わたくしが只今ただいま金きんや銀ぎんを持つて参まゐりませう」

と云いふかと思おもへば犬いぬの姿すがたは消きえました。暫時ざんじの後のち水車みづぐるまのやうな大おほきな目めをした犬いぬは澤山たくさん金きんや銀ぎんを持つて來きてくれ其その後のちも火打石ひうちいしを三度さんど撃うちさへすればいつも出でて來きて金銀きんぎんをもつて來きてくれますから其その後のち此この兵隊へいたいさん様さまは一生しやうを安樂あんらくに富貴ふうきに送おくりましたと云いふ事ことです。

(終り)



本會第拾五回總會記事

本會第拾五回總會は例に因つて去月廿一日午後一時卅分より東京女子高等師範學校附屬幼稚園に於て開會せり、主幹黒田定治氏先づ起つて開會の辭を述べ續いて故高嶺會長の後任として現任東京女子高等師範學校長中川謙次郎氏を推さんことを計り滿場一致を以て之を承認し主幹は直に之を中川校長に通じて其出席を求めたり頓がて中川新會長は出席し大要左の如き一場の挨拶を述べて直に退席せられぬ。

諸君、自分は故高嶺先生の後任として本會々長の任に就かんことを諸君の議決に因りて要請せらるゝの光榮を得たり、惟ふに不省固より其器に非ず職に女子高等師範學校長の任に非るよりは當然固辭するを以て適當とす。と雖も從來の慣例上却つて不都合の件ある由なるを以て致えて之を享くることせり、従つて此任務の遂行は一に會員及役員諸氏の御助力に俟つものなることは勿論のこととす。全會員並に役員諸氏希くは不省を援けて此重任に過誤なからしめんことを。

次に新會長は當日本校臨時職員會議開會の時間迫るの故を以て會長席を役員に譲りて退席せられたり。

夫れより來賓瀨川醫學博士は子供の痲癩に就きて、法貴慶次郎氏夫人は清國の婦人と子供に就きて、理學博士坪井正五郎氏は重れ寫眞に就きて何れも興味多き有益なる講演あり終つて一時休憩此間に參考陳列品を參觀し四時再び集會、役員より會務の報告あり次に多田房之助氏外七名の建議に基く本會規則の改正案に就きて審議し役員員の員數任命の手續き等を新規則の如く改正せり。(表紙第三頁に印刷)

次に左の申合せ議決を爲して午後五時散會せり
申合せ議決 本會々長は東京女子高等師範學校長を推戴すること

夏期講習會

開設
廣告

來る八月一日より十日間本會に於て夏期講習會を開設す幼兒教育に熱心なる母姉保母諸君の御入會を希望す

幼兒教育の理論及實際

東京女子高等師範學校助教授

和田實

一學科

音樂

東京女子高等師範學校教諭

林蝶

手工

東京市高等師範學校訓導

藤五代策

講習要目は次頁にあり御一覽を乞ふ

一時日

八月一日より同十日迄毎日午前八時より午后三時迄

一聽講料

金貳圓

但し本會々員は貳割引

一課外講演

前記學科外に時々大家を聘して有益なる課外講演を行ふ

一宿舎

御希望に因り適當なる宿舎を紹介す

一申込

來る七月十日迄に聽講料相添へ本會へ直接申込まる可し

明治四十三年六月

フ
レ
ー
ベ
ル
會

講習要目

● 幼児教育の理論及實際

第一篇 總論

- 第一章 幼児教育の意義及範圍
- 第二章 幼児教育の必要
- 第三章 幼児教育の教育上に於ける位置及任務
- 第四章 幼児教育の目的
- 第五章 幼児教育の方法概論
- 第六章 一般教育法と幼児教育方法との關係
- 第七章 誘導的教育の心理的基礎
- 第八章 幼児教育の特色
- 第九章 幼児教育の史的概見
- 第十章 保育法と教育學との關係

第二篇 遊戲的教育論

- 第一章 遊戲とは如何なるものぞ
- 第二章 遊戲の種類及其教育的價值
- 第三章 遊戲の發達と其教育法
- 第四章 經驗的遊戲の教育法(觀察及談話)
- 第五章 模倣的遊戲の教育
- 第六章 運動的遊戲の教育
- 第七章 唱歌及唱歌遊戲の教育
- 第八章 技術的遊戲の教育(恩物論)
- 第九章 製作的遊戲の教育(手工及圖方)
- 第十章 思考的遊戲の教育
- 第十一章 勞作的遊戲の教育
- 第十二章 玩具研究

第三篇 躰方教育論

- 第一章 躰方の範圍及其任務
- 第二章 躰方の教育的理法
- 第三章 生理的躰方の教育
- 第四章 方法的躰方の教育

第四篇 幼兒管理論

- 第一章 幼兒管理の意義及其任務
- 第二章 暗示の利用
- 第三章 幼兒の取扱方
- 第四章 命令及禁止
- 第五章 賞罰

第五篇 家庭に於ける幼児教育論(省く)

第六篇 幼稚園教育論

- 第一章 幼稚園とは如何なるものぞ
- 第二章 幼稚園の必要及其任務
- 第三章 幼稚園教育の効果(並に將來の幼稚園)
- 第四章 幼稚園の組織及編制
- 第五章 幼稚園の設備(建物及遊園)
- 第六章 幼稚園の設備(什器及其他)
- 第七章 幼稚園の經費
- 第八章 保育事項及其配當
- 第九章 保育日時及休日
- 第十章 保育の實際的一日(幼稚園職員と其活動)

第七篇 結論

● 手工

- 一 手工の意義及範圍
- 二 手工の種類及其教育的價值
- 三 紙細工及其教授法
- 四 切抜、折紙、織紙、厚紙細工
- 五 粘土細工及其教授法
- 六 粘土細工、陶器焼付、石膏細工
- 七 造花(初等教育を目的とせるもの)
- 八 麥稈細工(同前)
- 九 綿細工(同前)

音樂の講習要目は原稿間に合ひ兼候に付次號に於て御報告可申候